

11回目の稲刈り祭 雨の中、131人が参加

広町田んぼの会

11回目の稲刈り祭が2016年10月8日（土）に催され、天気予報が「弱雨」だったにもかかわらず、131人（スタッフ12人をふくむ）が参加しました。うち63人を、子どもたちが占めました。



「小雨決行」の予告どおり、午前9時すぎから刈り始めました。30分ほどすると、予報と違って、ときおり本降りになりました。



泥に足を取られながら

子どもたちも雨合羽を着て、用意した鋸鎌（のこぎりがま）を手にはだして田んぼに入りました。湿った泥に足を取られながら、稲株の根元を片手で握り、鋸鎌を押し当て、ごしごと引いて切り取ります。

6株ほど刈ったら、たたいて柔らかくした藁（わら）で束ねますが、これは低学年の子には難しく、同行した親や、他の大人たちが担いました。穂が泥にまみれないよう、田んぼに敷いたブルーシートの上で、束ね作業が進みました。

畦に積まれた稲束を、丸太とタケ材で組み立てた「はさ＝稲架け」に運びます。これには子どもたちも参加、幼児が4人がかりで、稲束を積んだリヤカーを往復する姿もありました。

スタッフ外の参加者が活躍

一般参加者のスタッフなみの活躍がめだちました。稲刈りや田植えのたびに参加の是永芳比古さん、郷里で稲刈りを経験した笹原悦子さんは、他の参加者への指南役。黒川好章さん、辻雄貴・有里さん夫妻、長谷川萩尾さん、深居恵美子さんらも束ね役や、子どもの入れない深みで刈り取る役を、作業終了まで続けました。

はさに稲束を架けたのは、スタッフが中心でしたが、一般参加の

男性たちも加わりました。こうして11時半すぎには、予定した田んぼ5枚分を刈り終えました。ただ、イネの上から、スズメ除けのネットを張る作業は積み残し、スタッフが2日後に処理しました。



母親たち24人がおにぎり作り

田んぼ横の御所川で手足の泥を落とし、入り口広場に戻ると、管理事務所の軒下に、おにぎり、大人には缶ビールが待っていました。門訓子さんから自主保育グループ「でんでんむし」、かまくら緑の探偵団の母親24人が、去年の収穫米で作ったものでした。